

令和7年度 新潟よつば学園学校評価<まとめ>

学校評価の結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

アンケートへのご協力ありがとうございました。保護者の皆様からいただいたご意見・ご感想は職員全員で共有し、今後の指導に生かしてまいります。

今後とも新潟よつば学園の教育にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

1 <質問1>について（児童生徒・保護者・職員）

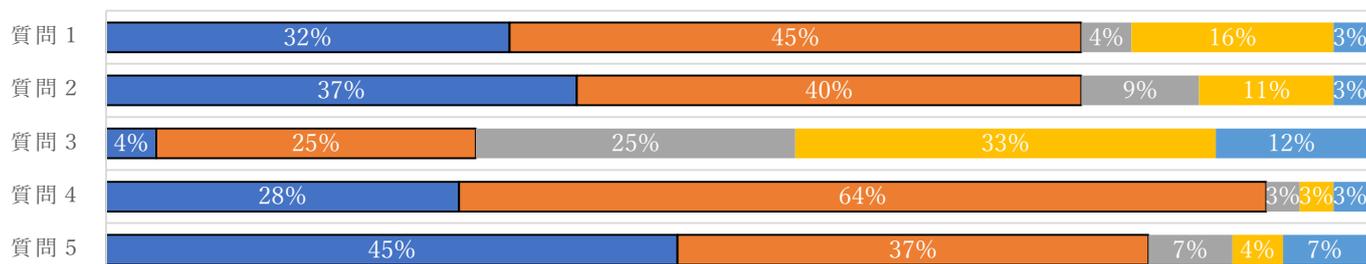
「Aよくあてはまる Bややあてはまる Cあまりあてはまらない Dほとんどあてはまらない Eわからない」の回答の中から、AとBを肯定的評価として数値化しました。

(1) 回答の集計 ※パーセンテージは肯定的評価の割合

【児童生徒アンケート】	7年度	6年度
設問1 <インクルーシブ教育> 他の教育部門の友達と一緒に学習したり、活動したりすることがありましたか。	77%	60%
設問2 <相手と積極的に関わろうとする態度の育成> 違う学年や教育部門の人とも自分からあいさつや会話などをしていますか。	77%	67%
設問3 <複数障害種学校としての価値の発信> 地域に出掛けて学習したり、他の学校と交流したりして、新潟よつば学園のことを知ってもらうことができましたか。	29%	55%
設問4 <個性及び障害特性に応じた教育> 学校の授業はあなたにとって分かりやすいですか。	92%	81%
設問5 <長期的な視点からの系統立った指導> 将来の自分のために必要な勉強をしていると思いますか。	82%	79%

令和7年度学校評価まとめ（全校児童生徒 回答数75）

- A たくさんあった、よくしている、よくあった、とてもわかりやすい、とても思う
- B ときどきあった、ときどきしている、ときどきあった、わかりやすい、思う
- C あまりなかった、あまりしていない、あまりなかった、あまりよくわからない、あまり思わない
- D ほとんどなかった、ほとんどしていない、ほとんどなかった、ほとんどわからない、ぜんぜん思わない
- E わからない、こたえられない



<児童生徒 学部別集計>

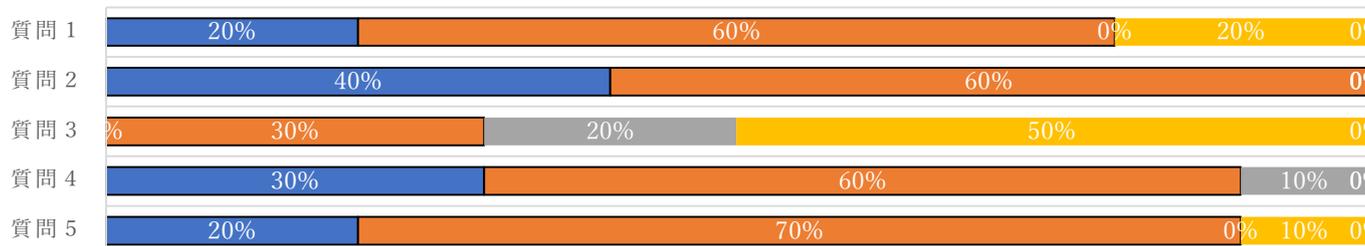
令和7年度学校評価まとめ（小学部児童）

- Aたくさんあった、よくしている、よくあった、とてもわかりやすい、とても思う
- Bときどきあった、ときどきしている、ときどきあった、わかりやすい、思う
- Cあまりなかった、あまりしていない、あまりなかった、あまりよくわからない、あまり思わない
- Dほとんどなかった、ほとんどしていない、ほとんどなかった、ほとんどわからない、ぜんぜん思わない
- Eわからない、こたえられない



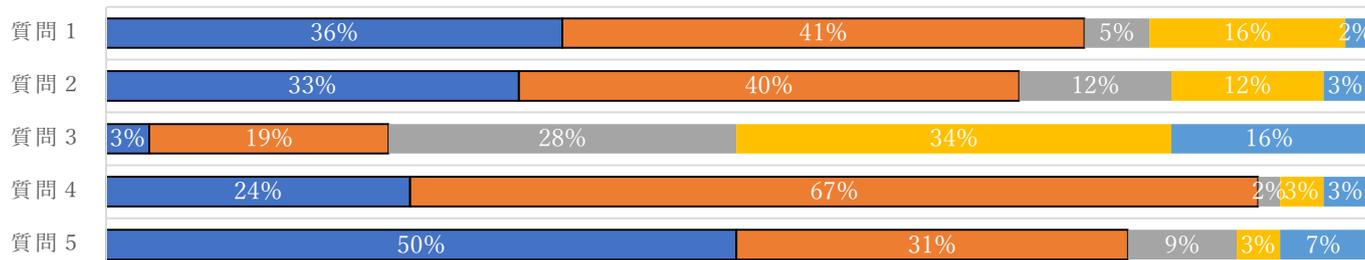
令和7年度学校評価まとめ（中学部生徒）

- Aたくさんあった、よくしている、よくあった、とてもわかりやすい、とても思う
- Bときどきあった、ときどきしている、ときどきあった、わかりやすい、思う
- Cあまりなかった、あまりしていない、あまりなかった、あまりよくわからない、あまり思わない
- Dほとんどなかった、ほとんどしていない、ほとんどなかった、ほとんどわからない、ぜんぜん思わない
- Eわからない、こたえられない

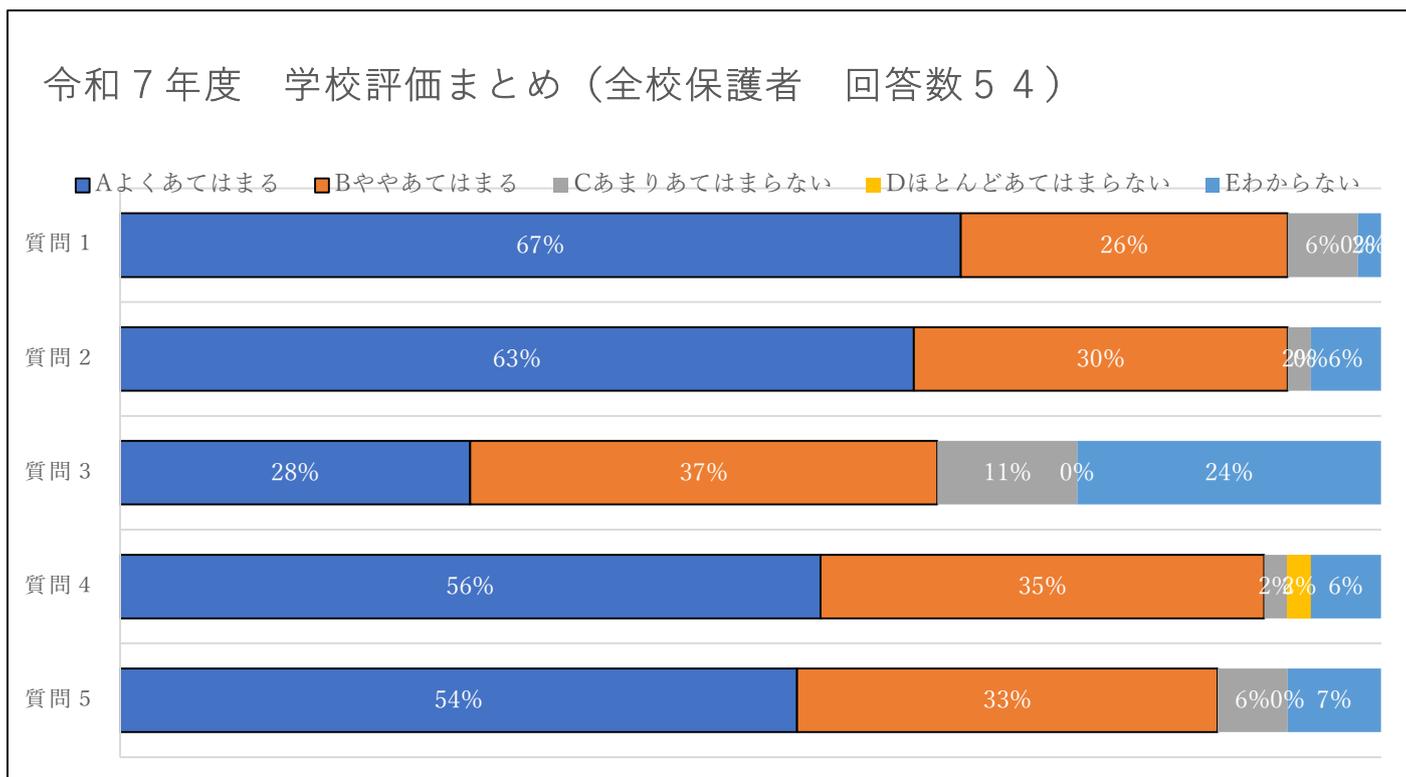


令和7年度学校評価まとめ（高等部生徒〔含専攻科〕）

- Aたくさんあった、よくしている、よくあった、とてもわかりやすい、とても思う
- Bときどきあった、ときどきしている、ときどきあった、わかりやすい、思う
- Cあまりなかった、あまりしていない、あまりなかった、あまりよくわからない、あまり思わない
- Dほとんどなかった、ほとんどしていない、ほとんどなかった、ほとんどわからない、ぜんぜん思わない
- Eわからない、こたえられない

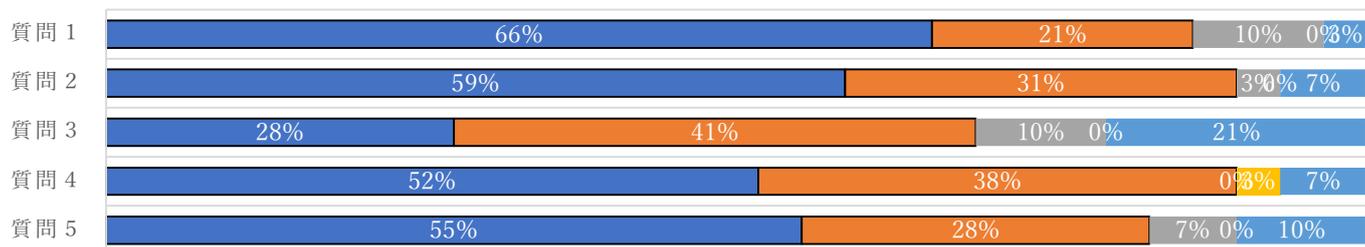


【保護者アンケート】		7年度	6年度
設問1	＜インクルーシブ教育＞		
学校は、学部や部門を越えて共に学ぶ機会を作り、仲間を大切にする取組をしていますか。		93%	89%
設問2	＜相手と積極的に関わろうとする態度の育成＞		
学校は、互いを尊重し、積極的に関わろうとする態度を育成していると感じますか。		93%	91%
設問3	＜複数障害種学校としての価値の発信＞		
学校は、新潟よつば学園の良さを発信するために、ホームページを活用したり、地域で学ぶ機会や他校との交流を適切に設定したりしていますか。		65%	65%
設問4	＜個性及び障害特性に応じた教育＞		
学校は、幼児児童生徒の個性や障害特性を踏まえて、一人一人に合った指導や支援を提供していますか。		91%	90%
設問5	＜長期的な視点からの系統立った指導＞		
学校は、幼児児童生徒の将来の自立や社会参加を見据えた視点から教育に取り組んでいますか。		87%	90%



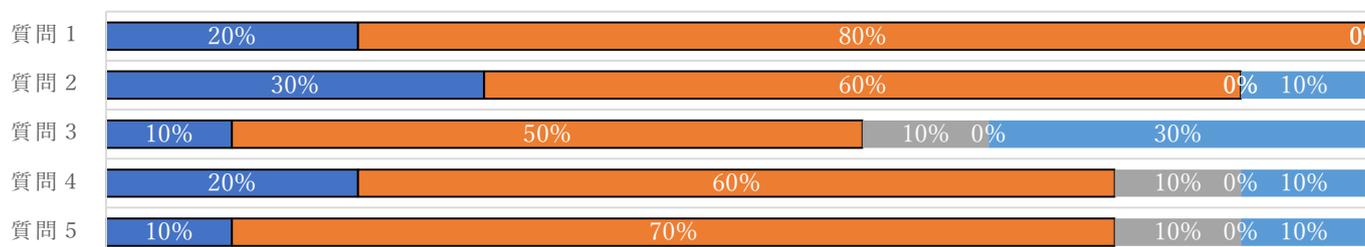
令和7年度 学校評価まとめ（高等部および専攻科保護者）

■ Aよくあてはまる ■ Bややあてはまる ■ Cあまりあてはまらない ■ Dほとんどあてはまらない ■ Eわからない



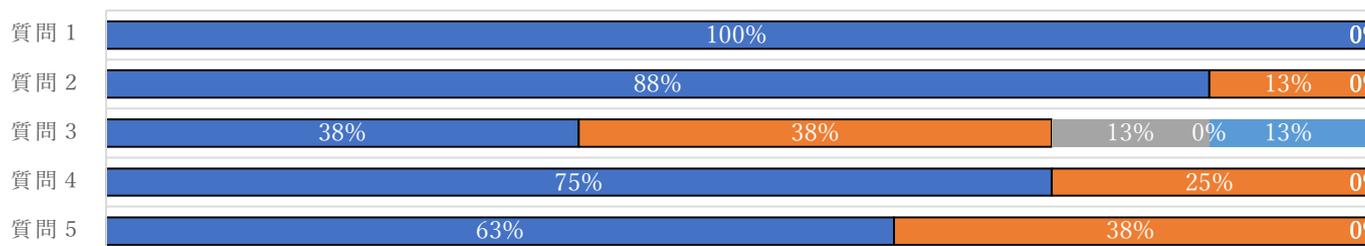
令和7年度 学校評価まとめ（中学部保護者）

■ Aよくあてはまる ■ Bややあてはまる ■ Cあまりあてはまらない ■ Dほとんどあてはまらない ■ Eわからない



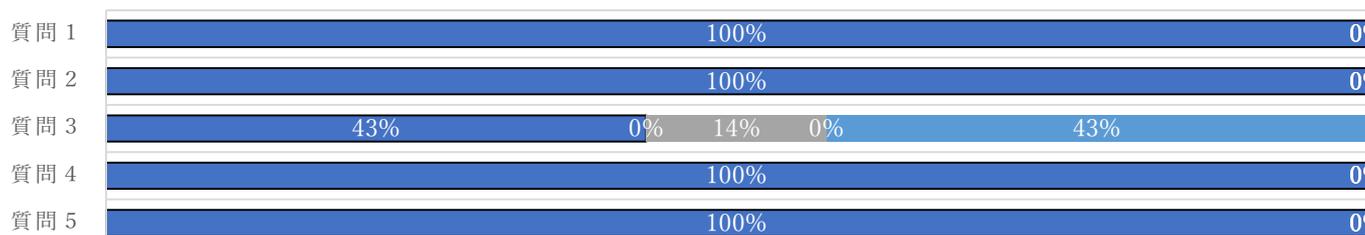
令和7年度 学校評価まとめ（小学部保護者）

■ Aよくあてはまる ■ Bややあてはまる ■ Cあまりあてはまらない ■ Dほとんどあてはまらない ■ Eわからない

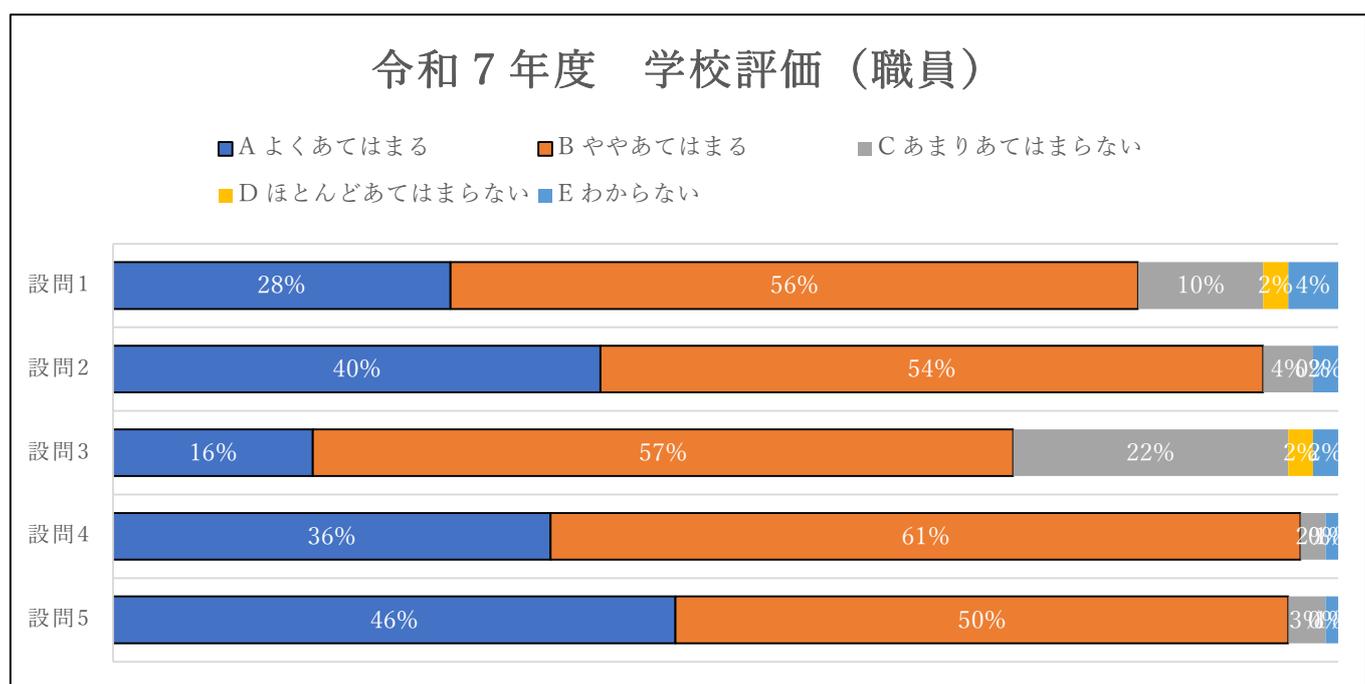


令和7年度 学校評価まとめ（幼稚部保護者）

■ Aよくあてはまる ■ Bややあてはまる ■ Cあまりあてはまらない ■ Dほとんどあてはまらない ■ Eわからない



【職員アンケート】		7年度	6年度
設問1	＜インクルーシブ教育＞		
共に学ぶ仲間として、教育部門間の交流のための具体的な実践をしましたか。		84%	73%
設問2	＜相手と積極的に関わろうとする態度の育成＞		
互いを尊重し、誰とでも積極的に関わろうとする態度の育成のための指導をしましたか。		94%	96%
設問3	＜複数障害種学校としての価値の発信＞		
異なる障害種の幼児児童生徒が学ぶ学校として、機会を捉えてその意義や素晴らしさを外部に伝えようとしたか。		73%	71%
設問4	＜個性及び障害特性に応じた教育＞		
研修に努めて専門的知識を深め、個性や障害特性に合った指導や支援につなげていますか。		97%	96%
設問5	＜長期的な視点からの系統立った指導＞		
幼児児童生徒の将来の自立や社会参加を見据えた長期的な視点から教育に取り組んでいますか。		96%	98%



（２） ＜質問1＞についてのまとめ

- ・ 設問1＜インクルーシブ教育＞、設問2＜相手と積極的に関わろうとする態度の育成＞について
昨年度より肯定的割合が上昇しました。他部門、他学部の児童生徒との学習や活動が増加、継続されたことで、児童生徒が他学部、他部門の児童生徒との関わり方を身に付けてきたことの現れと考えています。今後も、児童生徒同士が関わり合いの広がりや深まりを実感できるよう、他部門、他学部の児童生徒同士の学習や活動を継続していきます。
- ・ 設問3＜複数障害種学校としての価値の発信＞について
保護者、職員は他の設問と比べて肯定的割合が低いですが、一定の評価を得ていることから、今後とも継

続して取り組んでいきます。児童生徒については、肯定的評価が大きく減少しました。これは児童生徒アンケートの回答選択肢の表記を「よくあった、ときどきあった…」と今年度変更したことで他校との交流や校外学習の実施回数や頻度で判断したからと考えられ、本来の設問の意図である地域での校外学習や他校との交流学習を通して新潟よつば学園を知ってもらえたかどうかに正しく答えることができていなかったからと考えます。そのため、次年度は、児童生徒に対しても設問の意図を正しく理解してもらえるよう回答の選択肢を検討します。

・ 設問4 <個性及び障害特性に応じた教育>について

児童生徒、保護者、職員ともに肯定的評価が多かったことから、全般に個に応じた支援、将来へつながる系統的な指導が継続的に丁寧になされていると考えます。保護者の自由記述からも、一人ひとりに合った指導について肯定的回答を多くいただくことができました。

2 <質問2・3>について（児童生徒）

(1) 児童生徒用アンケートの設問

<質問2：新潟よつば学園の良いところは何か？>

<質問3：新潟よつば学園が、どんな学校になるとうれいしいですか？>

(2) 児童生徒の記述についてのまとめ

◎良いところとしてあげられたもの

- ・児童生徒や先生方が明るい、優しい、仲が良い、元気。
- ・他部門との交流。様々な人と関われる。
- ・一人ひとりに寄り添った対応、支援、学習。
- ・学校が新しくきれい。

◎どんな学校になるとよいかであげられたもの

- ・もっと他と関わりたい（友達、他学部、他の学校、地域の方）。
- ・マナーやルールが守れる学校。
- ・もっと昼休みや休み時間が欲しい。

- ・「児童生徒や先生方が明るい、優しい、仲が良い、元気。」との記述から、児童生徒間や学校の中の人間関係が良好と感じている児童生徒が多いことが分かりました。職員の指導や支援を、多くの児童生徒が肯定的にとらえていました。

今後も一人ひとりに寄り添った児童生徒への接し方や指導を継続していきます。

- ・多様な障害種の幼児児童生徒がともに活動することについて、多くの児童生徒が良いところとしてとらえていました。「もっと他と関わりたい。」として部門や学部、学校を超えた活動がさらに増えたり広がったり深まったりすることを求める意見も多かったです。一方で、多様な人が集まるからこそお互いが心地よく過ごせるような配慮についての希望も出ています。

このことから、他部門や他学部との活動や学習、他校や地域などに関わる活動や学習を、幼児児童生徒の実態や学部、部門の課題を十分に考慮しながら、継続、発展させていきたいと考えています。

3 <質問2・3>について（保護者）

(1) 保護者用アンケートの設問

<質問2：新潟よつば学園の良いところは何か？>

<質問3：新潟よつば学園が、どんな学校になるとうれいしいですか？>

(2) 保護者の記述についてのまとめ

◎良いところとしてあげられたもの

- ・個別化された指導・支援（授業の質）
- ・部門横断の交流・協働
- ・行事・体験学習（食育・校外学習等）

◎どんな学校になるとよいかであげられたもの

- ・施設・設備・観覧環境
- ・もう教育・ろう教育の強化
- ・交流・参加機会の拡大（縦のつながり/地域含む）
- ・学習支援の個別化・レベル分け（基礎教科含む）
- ・進路・職業教育の拡充

- ・ 個に応じた支援に対して、多くの高評価をいただきました。他に、子どもの特性やペースに寄り添うこと、将来を見据えた指導を行っていること、職員が明るく積極的に関わっていることについての声もいただきました。また、高等部の保護者を中心に、卒業後の生活を重視した指導や支援について評価する意見も見られます。一方で、保護者の皆様からは、もう、ろうの専門的教育の継続についてのご指摘もありました。また、学習支援の個別化や進路・職業教育の拡充を求める声もありました。

これらのことから、幼児児童生徒の個に応じた指導や支援についてはこれまで同様に取り組みつつ、障害種に応じた専門性や個別最適な学習支援の方法、進路・職業学習について研修を深め、幼児児童生徒の指導や支援に反映させていきたいと考えています。

- ・ 学部や部門を超えた交流や活動について、貴重な経験と捉えるご意見を多くいただき、創立以来重ねてきた学部や部門を超えた活動について、多くの保護者からご支持をいただいていることが分かりました。一方で、他の学部・学年との交流や地域との交流機会の拡大を望む声も見られます。

これらのことから、学部や部門を超えての交流の良い点は継承しつつ、進路や将来の生活を踏まえて交流機会を拡大して行きたいと考えています。

4 <質問2・3>について（職員）

(1) 職員用アンケートの設問

- 当校の取組について<具体的な成果>
- 当校の取組について<課題と改善案>
- 学校運営、組織について<具体的な成果>
- 学校運営、組織について<課題と改善案>

(2) 職員の記述についてのまとめ

◎成果としてあげられたもの

- ・部門間交流（学校行事・合同の活動）の定着、進展
- ・組織運営・連携（相談しやすい雰囲気・分掌内での部門間連携・寄宿舎と学校との連携）
- ・支援・指導の質の向上
- ・専門性の向上のための研修充実

◎課題としてあげられたもの

- ・ 部門間交流のねらいの共有や明確化
- ・ 専門性の継承と向上（障害種／教科など）
- ・ 行事・授業におけるねらいと実態の乖離
- ・ 業務量の偏在、多忙化
- ・ 分掌・人員配置
- ・ 情報保障体制

- ・ 多くの職員が、学校行事や委員会活動、生徒会行事等で3部門の交流が定着したこと、交流によって幼児児童生徒が互いに関わり合って互いの理解を深めたと考えています。一方で、学部や部門を超えて活動するときのねらいの明確化を課題とする意見も出されました。

これらのことから、より幼児児童生徒の実態に即した活動内容やねらいを検討して、学部や部門を超えた活動を継続していくことが必要であると捉えています。

- ・ 職員間で相談しやすい雰囲気がある、分掌内で連携が図れた、主事や管理職に相談できた、など連携して組織の運営ができたという肯定的な回答が見られた。

部門合同の授業や校務分掌の業務を進めることで職員間の連携が進んでいますが、他学部他部門との連携もさらに進めていくことが課題と考えています。

- ・ 校内研修で、専門性向上のための研修が充実し成果を上げたと捉える一方で、障害種による専門性についての研修の継続や知識技能の継承の必要性を挙げる意見も見られました。

今後も、職員全体で障害種に応じた専門性の維持と継承について研修を深めていきます。

5 全体のまとめ

学校評価アンケートでは、児童生徒や保護者からは全体的に肯定的な評価をいただきました。職員についても同様に肯定的評価が多かったです。幼児児童生徒一人ひとりに向き合う指導や支援にこれからも継続して取り組みます。また、障害種による専門性、進路や将来の生活を見据えた指導や支援についても研修を深めていき、さらに幼児児童生徒の成長や保護者の信頼につなげたいと考えています。

3部門合同の行事や学習についても、児童生徒・保護者から高い評価をいただきました。今後もよりよい取組にするために、計画・実施に当たっては部門を越えて協力・連携を進めていきます。

引き続き、肯定的な評価を受けた取組については確実に継続し、課題については改善に努めていきます。

6 学校評議員より

- ・ アンケートで、肯定的評価が上昇したことはすばらしい。
- ・ 複数障害種学校としての価値の発信についての評価が他の項目と比べて低いことについては、学校について知ってもらうことが必要になる。
- ・ 校内実習や職場実習の様子も、学校ホームページであげることができるのではないかと。障害をもつ方や特別支援学校の生徒はどんな仕事ができるのか、という問い合わせも多く聞かれる。実際に学校見学をされた企業関係者は、生徒の真面目さや先生方の熱心さという学校の良さを知り、見学前後で印象が180度変わる。長い時間をかける必要があるだろうが、生徒の良さをホームページや見学で知ってもらえるとよい。